

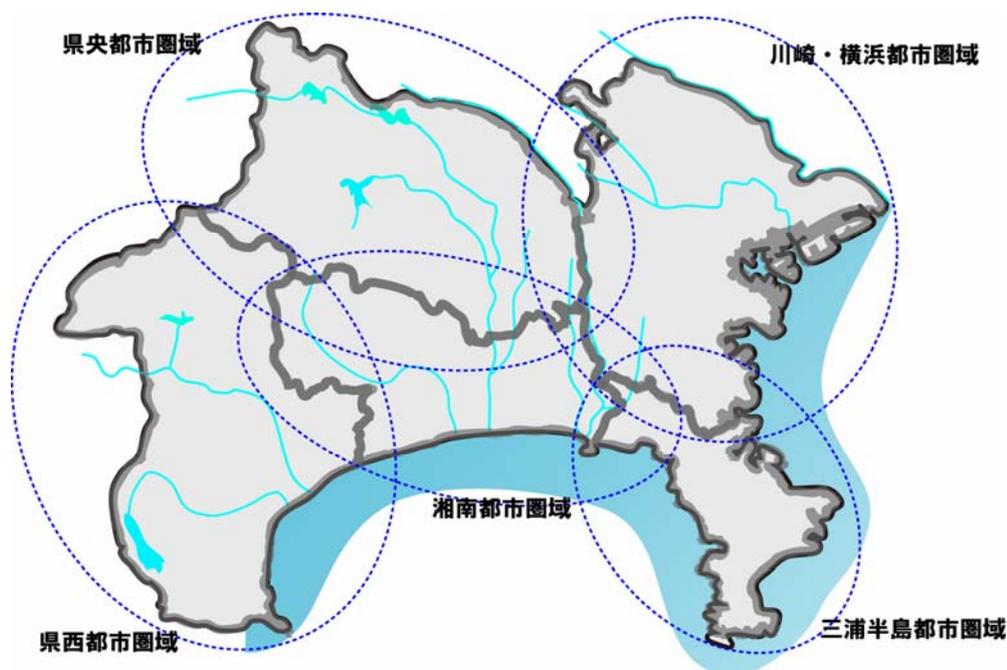
「県土・都市像」(地域の個性を伸ばし、やすらぎと活力を感じる都市 かながわ)の実現に向けた「環境共生」と「自立と連携」の2つの県土・都市づくりの方向性を踏まえて、広域的かつ総合的な都市づくりに取り組んでいく必要があります。

神奈川は首都圏という大消費地に位置するとともに、豊かな自然的環境を有しています。また、各地域に魅力ある歴史・文化資源が存在している一方で、先端的な技術産業や大学、企業の研究施設が集積しているなど、今後の時代を切り開く、優れた潜在能力と豊かな個性を有しています。

これからは、それぞれの個性を伸ばすとともに、それらが相互に連携することで、神奈川の持つ潜在能力をさらに高め、住む人、訪れる人の全てが多様な選択を行える県土づくりを、市町村や県民などと協働で進める必要があります。

そのため、「川崎・横浜都市圏域」、「三浦半島都市圏域」、「湘南都市圏域」、「県央都市圏域」、「県西都市圏域」の5つの都市圏域ごとに、それぞれの個性を生かした広域的な都市づくりの基本方向を示します。

● 都市圏域図 ●



1 川崎・横浜都市圏域

都市づくりの目標

産業・文化が世界と交流し、国際的な魅力あふれる都市づくり

先端技術産業や数多くの研究機関が集積する川崎と、開港以来、海外から様々な文化を取り入れ新たな産業を生み出してきた横浜からなる「川崎・横浜都市圏域」では、これまでに果たしてきた経済の活性化や国際交流・文化交流をさらに充実させ、世界に向けて発信・発展する国際的な魅力あふれる都市づくりをめざします。

地域の魅力

神奈川全体の自立的な発展を支え得るマーケットを有している
高度な産業や優れた人材などが豊富に集積している
世界に向けて開かれ、海外との諸都市と交流・連携する力がある

基本方向

川崎・横浜都市圏域は、これからの神奈川全体の自立・発展をけん引する地域として、また、首都圏全体の中核的な都市としての役割を果たしていくことが重要です。

そのため、既存ストックの集積を活用しながら多彩な人材の活躍機会・ビジネスチャンスなどを生み出し、首都圏・全国・世界とのつながりのなかで、その活力を生かしていくことが重要となります。特に、世界との交流連携を通じて人材・企業・情報など新たな資源を獲得していくために、国際競争力をいっそう強化していくことが必要です。

一方、多摩川や鶴見川沿いの自然空間や東京湾岸の水辺空間、多摩丘陵の緑など都市に残された貴重な自然的環境との調和を図りながら、多様な人々のニーズに応じた、より質の高い安全で機能的な都市づくりを進める必要があります。

環境共生の方向性

複合市街地ゾーン(海側) 首都圏の中核的な機能の強化
複合市街地ゾーン(内陸) 鉄道駅を中心とした自立的コミュニティの形成
環境調和ゾーン 計画的な宅地誘導、地域特性に応じた環境保全
自然的環境保全ゾーン 貴重な自然的環境・資源の保全と活用

自立と連携の方向性

中核拠点 全国・世界に開かれた都市の拠点性の向上
広域拠点 圏域の自立性を高める都市機能の集積
新たなゲート 世界との接点、京浜臨海部の機能更新
連携による機能向上 国際競争力の向上に資する広域的なネットワークの形成や圏域内外の流動性の向上、交流・連携による地域資源の有効活用



拡大する消費市場

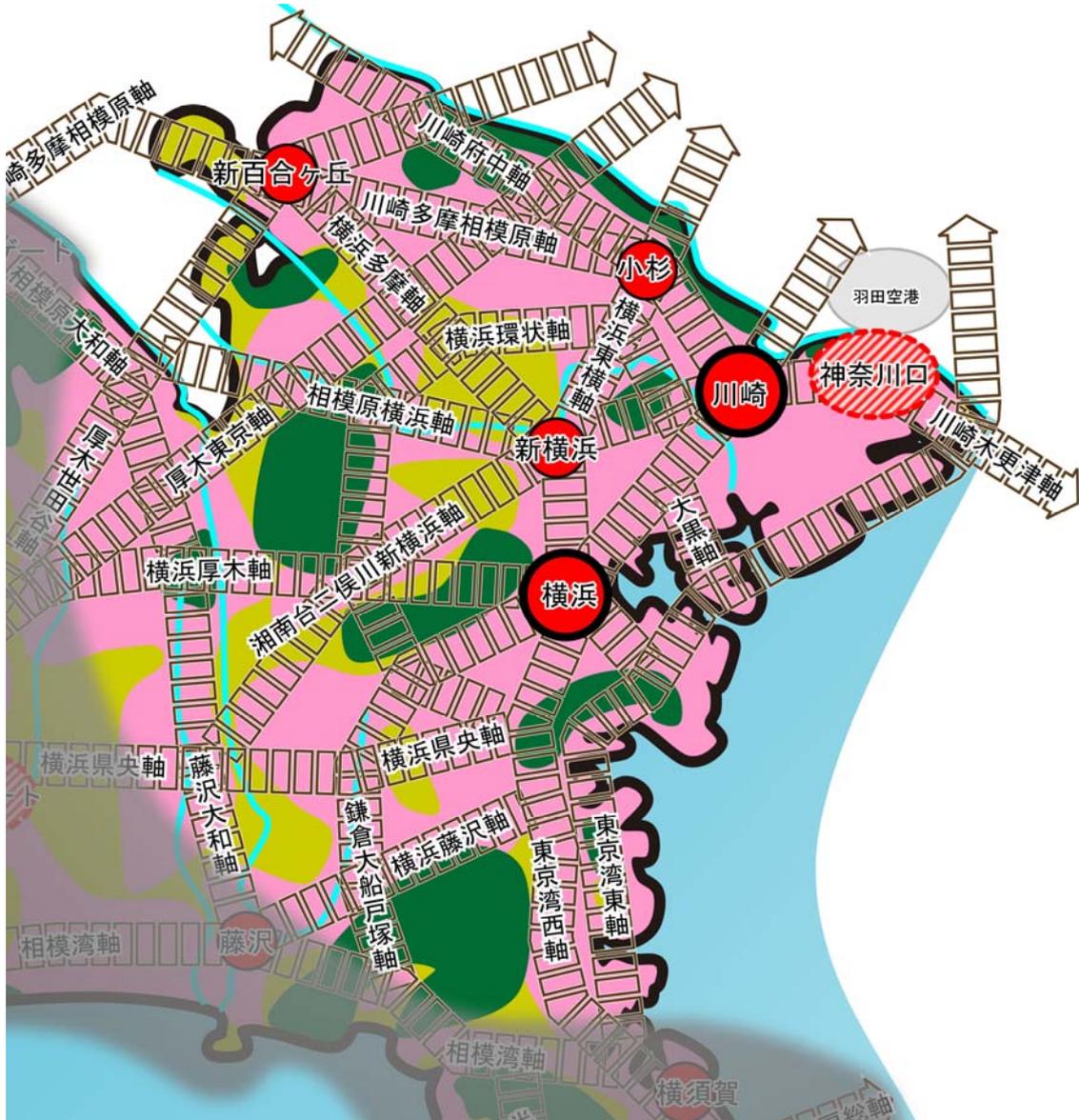


海外との強い結び付きの歴史



国際的な交流・連携

● 川崎・横浜都市圏域の都市づくりの方向性 ●



* 連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	中核拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン	広域拠点	
	自然的環境保全ゾーン	新たなゲート	

2 三浦半島都市圏域

都市づくりの目標

半島のみどりと海に調和し、生き生きとした都市づくり

三方を海に囲まれ、変化に富んだ海岸線を有し、多摩丘陵から続くまとまったみどりや古都鎌倉の豊かな歴史と伝統に恵まれた「三浦半島都市圏」では、これらの魅力的な地域資源の保全・再生を図るとともに、水やみどりと共生した都市的環境を創造することで、人々がうるおいをもって快適に過ごせるようにするとともに、首都圏や海外からも多くの人々が訪れる「公園」のような、交流が活発な都市づくりをめざします。

◆地域の魅力

- 風光明媚で気候温暖、自然に恵まれたくらしやすい環境である
- 川崎・横浜の大消費地と近接し、産業ポテンシャルが高い

◆基本方向

三浦半島都市圏域は、都市圏域全体が「公園」のような魅力を発揮していくために、半島の多くの部分を占め、地域の個性を育んできた自然的環境の保全と活用を図るとともに、それと調和・共生した都市的環境を形成することが必要です。

また、恵まれた自然的環境を生かして自立性と活力を高めていくことが重要であり、知的産業等の誘致、新たな人材、知恵・技術等の獲得などができる魅力ある都市づくりや、農水産物など特色ある地域の資源・産業を活用した交流の活発化を図る必要があります。

環境共生の方向性

- 複合市街地ゾーン……………土地の有効活用、利便性の高い市街地の形成
- 環境調和ゾーン……………生態系などへの配慮とメリハリある土地利用
- 自然的環境保全ゾーン……………まとまったみどりの育成・活用

自立と連携の方向性

- 広域拠点……………企業や人材の活動を支える高度な都市機能の集積
- 連携による機能向上……………大規模なマーケットを視野に入れた産業・観光等の活性化の促進



水とみどりに恵まれた環境

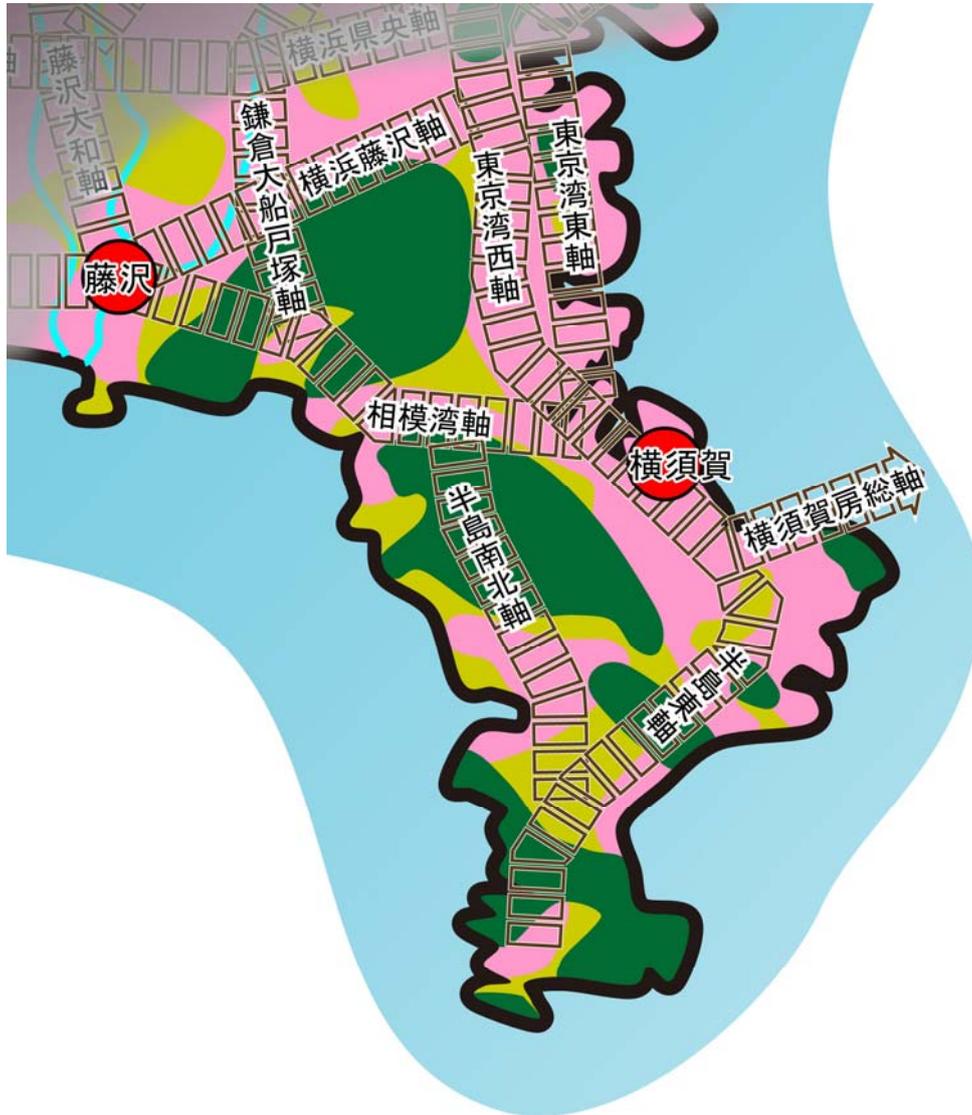


広くまとまりのある農地



地域特性を生かした産業の立地

● 三浦半島都市圏域の都市づくりの方向性 ●



*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡例	<環境共生>	<自立と連携>	
	 複合市街地ゾーン	 広域拠点	 県土連携軸 (都市連携軸)
	 環境調和ゾーン		
	 自然的環境保全ゾーン		

3 県央都市圏域

都市づくりの目標

森や川と共生し、うるおいと活力あふれる都市づくり

丹沢や相模川を中心とした森林・川・湖・清流などの自然と、活気ある都市とがバランスよく存在する「県央都市圏域」では、水源を守り、河川沿いにつらなる豊かな自然的環境を保全・再生するとともに、広域的な交通結節機能を踏まえた生活環境や生産環境の整備を図り、うるおいと活力にあふれる循環型の都市づくりをめざします。

◆地域の魅力

- 自然的環境と都市的環境とが共生して地域を形成している
- 広域的な交流連携、市場拡大が可能な交通の要衝である

◆基本方向

県央都市圏域は、自然と都市とがバランスよく存在する特色を伸ばし、生かしていくことが重要であり、自然・都市、生活・産業の調和・均衡のとれた都市づくりを進める必要があります。

また、都市圏域全体の活力を充実させていくために、自然・歴史・文化や大学・研究機関の集積など様々な地域資源を活用した魅力ある都市づくりを進めるとともに、広域的な交通の要衝としての強みを生かし、産学官連携など、多様な担い手間での交流連携をいっそう促進していくことが必要です。

環境共生の方向性

- 複合市街地ゾーン……………多様な選択肢を提供可能な都市づくり
- 環境調和ゾーン……………ゆとり志向に対応した、魅力ある地域環境の維持・充実
- 自然的環境保全ゾーン……………多様な担い手による自然的環境の保全・再生

自立と連携の方向性

- 広域拠点……………交通の要衝としてのポテンシャルを生かした機能集積
- 新たなゲート……………全国との交流連携の窓口となる新たな拠点づくり
- 連携による機能向上……………多様な活動の新たな展開を促す広域的なつながり、連携の拡大



市街地にうるおいを与える豊かな自然

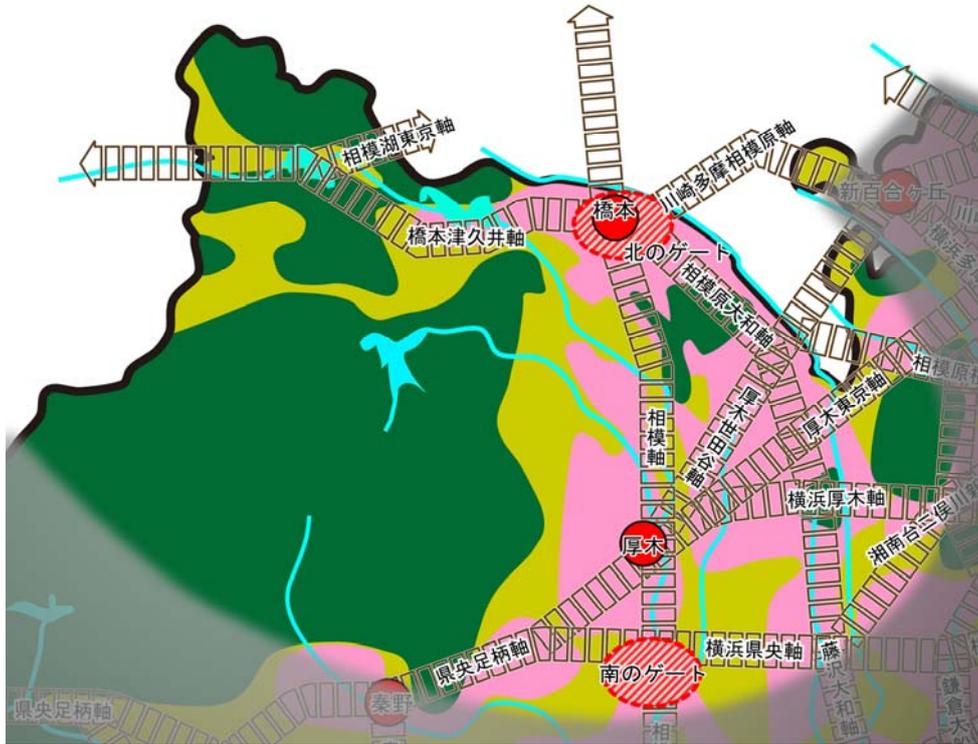


交通の要衝としての成長



広域的な連携の拡大

● 県央都市圏域の都市づくりの方向性 ●



*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	広域拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン	新たなゲート	
	自然的環境保全ゾーン		

4 湘南都市圏域

都市づくりの目標

山なみをのぞみ、海と川が出会い、 歴史を生かし文化を創造する都市づくり

湘南のなぎさや相模川、丹沢のやまなみの遠景などの自然資源や相模湾沿岸に広がる旧別荘などの歴史・文化的資源に恵まれた「湘南都市圏域」では、貴重な地域資源を広域的に保全・活用し、県土のうるおいの軸として育むとともに、広域的な交通基盤の整備と合わせた都市機能の集積などにより、地域の価値や魅力をいっそう高め、優れた環境と地域力を備えた都市づくりをめざします。

◆地域の魅力

- 街道によって育まれた歴史などにより、豊かな資源が蓄積されている
- 「なぎさ」などの自然が上質な環境を演出し、地域ブランドを育てている

◆基本方向

湘南都市圏域は、湘南海岸のなぎさや丹沢大山のやまなみなどの特色を生かして、より強い地域ブランドを構築することが重要であり、相模湾や相模川沿いに点在する貴重な地域資源を連携させ、一体的に保全・活用することで、魅力ある景観や質の高い環境を形成していく必要があります。

また、地域ブランドを積極的に活用しながら都市圏域内外での交流連携を活発化させるとともに、新たな生活文化や産業などを生み出す付加価値の高い都市づくりを進める必要があります。

環境共生の方向性

- 複合市街地ゾーン……………地域ブランドを構築・発揮する魅力ある都市空間の形成
- 環境調和ゾーン……………海と山の魅力を融合させる土地利用
- 自然的環境保全ゾーン……………新たな魅力を生み出す山や森林等の保全・活用

自立と連携の方向性

- 広域拠点……………「湘南ブランド」を生かした活力増進と情報発信
- 新たなゲート……………「環境共生」のモデルとなる都市拠点の形成
- 連携による機能向上……………広域的な交通利便性の向上に伴う交流連携効果の拡大



街道筋に育まれた歴史的資源



多くの人を魅了するなぎさ



環境を守る様々な取組み

● 湘南都市圏域の都市づくりの方向性 ●



*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡 例	<環境共生>	<自立と連携>	
	 複合市街地ゾーン	 広域拠点	 県土連携軸 (都市連携軸)
	 環境調和ゾーン	 新たなゲート	
	 自然的環境保全ゾーン		

5 県西都市圏域

都市づくりの目標

歴史と自然につつまれ、 観光と交流によるにぎわいのある都市づくり

富士・箱根・伊豆に連なる豊かな自然を背景に、山・川・海・湖・温泉、歴史や文化などの観光資源に恵まれた「県西都市圏域」では、これらの資源の保全・活用を図りながら、隣接する山梨・静岡両県と連携しつつ国内外から多くの人々が訪れ、交流する地域としての魅力の向上や、地域活力の向上に資する都市機能の集積を図り、職・住・遊が一体となって豊かな暮らしを実現できる都市づくりをめざします。

◆地域の魅力

- 国際観光地としての魅力があり、交流人口によるマーケットがある
- 地域資源を生かす「場」の力がある

◆基本方向

県西都市圏域は、国際的な観光・リゾート地としての優位性を生かして都市圏域全体の魅力と競争力の向上を図ることが重要であり、その強みの元となっている豊かな自然や文化的遺産などの観光資源の維持・活用とともに、交流を通じて地域の価値をいっそう高める必要があります。

また、都市圏域の自立性を向上させるために、裾野の広い観光・交流産業の育成を基調としつつ、環境や生活に配慮した新しい産業機能などの立地を促進することが重要です。

環境共生の方向性

- 複合市街地ゾーン……………多彩な交流を支え、住み続けられる環境づくり
- 環境調和ゾーン……………計画的な土地利用による環境・資源の管理
- 自然的環境保全ゾーン……………豊かな自然的環境の維持

自立と連携の方向性

- 広域拠点……………中心市街地の機能強化
- 連携による機能向上……………広域的な連携による活力向上、ニーズの多様化などへの対応

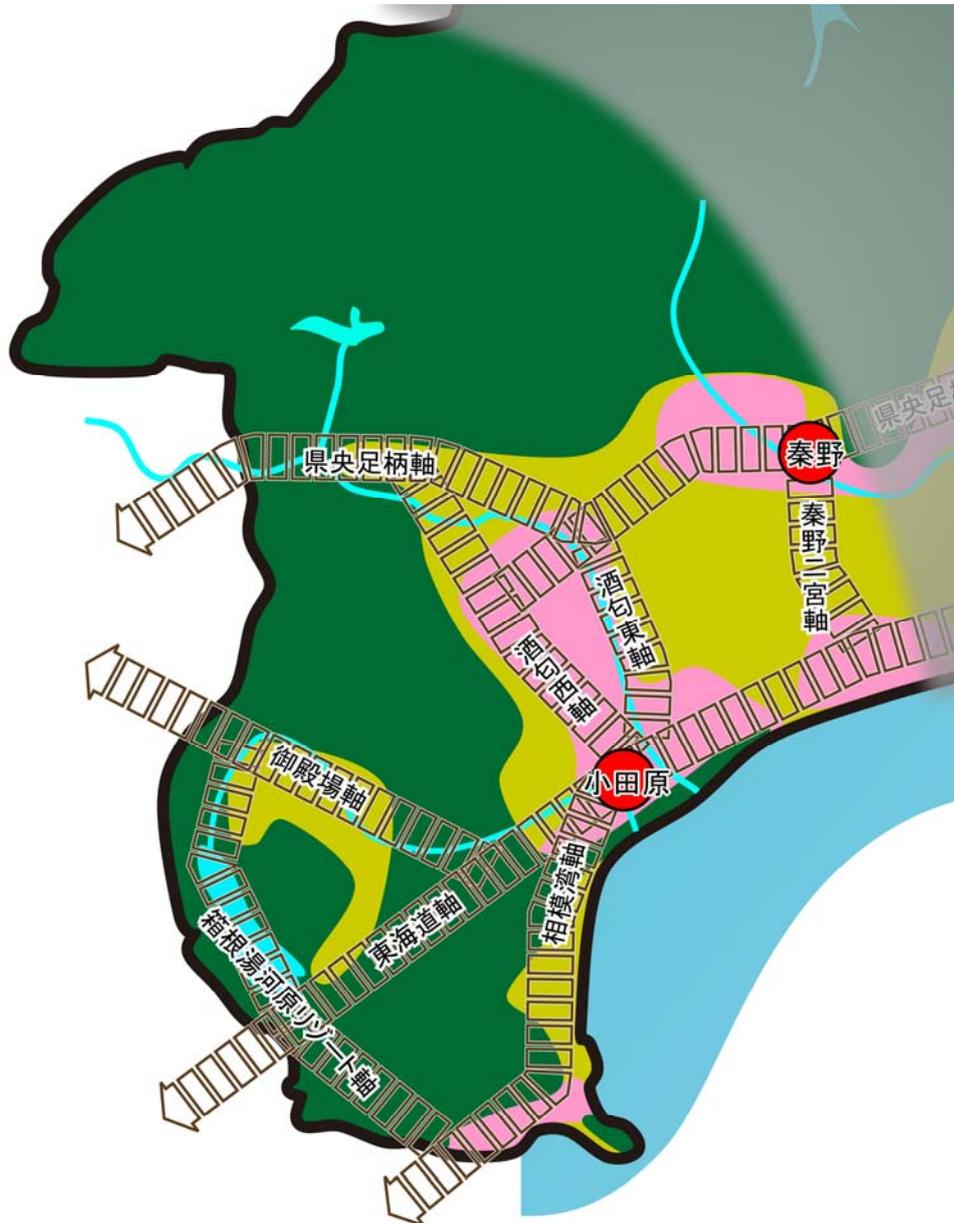


温泉や城など豊富な観光資源



伝統産業、観光産業、先端産業など多様な産業機能

● 県西都市圏域の都市づくりの方向性 ●



*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	広域拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン		
	自然的環境保全ゾーン		